

# 民話の発掘、伝承目指す

## 石岡の「ふるさと風の会」

### 10～15日 会報2周年記念展

「ふるさと」の歴史・文化の再発見と創造を考ふる」をテーマに活動する、石岡市の「ふるさと風の会」は10日から15日まで、同市栄間のキター文化館で、会報創刊2周年記念「風の会展」を開催。

(吉田裕美)

同会のルーツは、ふさんが市民作家の育成をさとの民話を発掘し伝承していくことを目指して2004年6月に開講した「民話ルネサンス講座」。市街地活性化を図って企画された「ふるさとルネサンス」によるまちづくりの一環で、同市在住の脚本家・白井啓治

さんが市民作家の育成に努めた。その講座と、白井さんが指導する朗読劇団「ことば座」を結成し、「表現吉しゅわーど」の受講生らが2008年6月、白井さんを中心に「ふるさとルネサンスの会」を結成。会の活動を広報するため、月刊の会報第一号



白井啓治さん（中央）とふるさと風の会の会員たち

を発行した。昨年4月、活動の拡充を図って会の名を「ふるさと風の会」に改め、同時に会報の名称も変えた。

この間に、「しゅわーど」の定期公演も実施し、さらにプロの演技を目指す朗読劇団「ことば座」を結成。その後、「しゅわーど」は消滅し、「ことば座」が公演活動を継続している。

現在の会員は、6人。月例の勉強会に集まるほか、会報に、「ふるさと」に関連する歴史や文化、日々の思いなどを書いて寄せている。会報は、前身の「ふるさとルネサンス」から数え、6月で第25号。B5判16頁の小冊子で、毎号500

部印刷、市とそとの周辺の公共施設や店など約50カ所に置いて、無料配布している。

記念展では、「民話ルネサンス講座」から始まる歩みを写真やパネルで紹介。創刊号から第25号までの会報のほか、会員の経歴や実績、絵画など会員の作品などを展示する。また、最終日には午後2時から、ことば座第8回定期公演「當世の国の恋物語百―第15話「風の姿」異説三味塚古墳」を上演する。

記念展の時間は、午前10時～同5時（最終日は正午）。入場料300円（コーヒー付き）。公演料金は、前売り2500円（当日3000円）、小学生1800円。

問い合わせは、ふるさと風の会事務局（電話0299・24・2063）まで。